の設定やフレコンバッグの貸出をしてもらったので、効率化が図られ経費が削減された。」などの声を多く頂き、喜んでいる次第であります。

一方、青果物については、主力品目のネギが夏場の猛暑により、多くの圃場で軟腐病や白絹病が発生したほか、11月の長雨と早めの降雪による収穫の遅れ、さらに他産地との出荷時期が重なったことによる価格の低下で、販売高は目標の10億円には遠く及ばない8億円程度になる予想です。また、みょうがは春先の低温と夏場の高温乾燥で収穫が遅れましたが、販売単価は順調に推移し、販売高1億2800万円とまずまずの実績となりました。これから収穫されるアスパラガスや山うどなど、冬場の作物に期待をかけている状況であります。

畜産については、「白神牛」のブランドで販売される肉牛などが、放射能による風評被害を受けて価格が低迷するなど厳しい経営を余儀なくされました。JAは東京電力㈱に対し損害賠償を請求するなど、その対応を行ってまいりました。そんな中で県有種雄牛「義平福」の血をひいた肉牛が全国の品評会で2位に輝いたことから、値段も上がって生産者の喜びと期待が高まっております。

花卉については、藤里地区で栽培が行われているリンドウも出荷3年目となり、生産面積は2haに、また生産者数も4人から6人と着実に増えております。昨年の販売高は前年の約1・5倍の1，500万円となり、市場からも高い評価を受け、藤里町の新たな特産品として注目を集めています。

近年、気象変動によって農産物の品質や収量が低下する問題が深刻となっている中で、白神山地を水源とする豊富なミネラルを含んだ白神山水で栽培された作物の安定供給を望む声が、市場関係者から多く寄せられております。このようなことから、当JAでは組合員の所得向上を目指すためにも、安全・安心な農畜産物の生産拡大を図るとともに、消費者の要望にもこたえていきたいと思います。

現在、大きな関心が寄せられているTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）問題は、単に農業のみならず、安心・安全な国民の暮らしや医療などわが国の根幹に関わる問題であります。実際TPP交渉に参加した場合、食料自給率は現在の39％から13％程度まで後退し、生産者の減少や農業の多面的な機能の喪失となり、日本農業や地域経済の崩壊につながります。JAグループでは、国民の暮らしを脅かすTPP交渉参加へ断固として反対し、政府に対して強く要望していく所存です。

昨年11月に第28回秋田県JA大会が開催され、「次代へつなぐ協同」をメインテーマに、農業の持続的な発展と安心な暮らしの実現を目指すことを決定いたしました。急速に進む人口減少に伴う組合員や担い手の不足、就農者の高齢化など喫緊の課題が山積しております。このようなJAの経営基盤の脆弱化への対応と財務基盤の確保に向けて、JA組織の再編が必要となっております。組合員や地域の多様なニーズに応え続けるため、引き続き県内5JA化に向けて取り組んでまいります。

最後に、昨年10月に第135回秋田県種苗交換会が能代市で開催されました。長い歴史と伝統の中にあって初めて皇太子さまが農産物出品展示会場をご視察され、生産者の努力に深い感銘と敬意を表されておりました。白神管内からは出品した405点の農産物の中から、農林水産大臣賞2名、秋田県知事賞等14名、また3年連続で秋田県知事賞を受賞して今年顕彰者として表彰される生産者2名など、栽培技術のレベルの高さを県内外に示しました。今後においても米一辺倒の栽培にとどまらず、複合経営を一層推進して生産者の所得向上につなげていきたいと思います。新しい年も、目的と希望を持って、力強く進んでいきましょう！

本年も皆様の変わらぬご理解と、ご協力を賜りますようお願い申し上げて、新年のあいさつと致します。

理事　菊地幸子
理事　工藤正徳
理事　池端秀巳
理事　佐藤謙悦
理事　戸松義盛
理事　小川繁
理事　永塚誠司
代表監事　渡邉博
常勤監事　桂田和弘
監事　清水英夫
監事　市川譲
監事　大山澄子

本誌をもって、年始のご挨拶とさせていただきます。